

## 説教『最も大切な選択』

出エジプト記 20 : 3 (2011年8月28日説教要旨)

少し大げさな言い方ですが、私たちは毎日いろいろなことを選択して生きています。小は何を食べ何を着るから、誰と会い、何をやるから、大はそんな仕事に就くか、結婚相手のことなど、右か左か、進か退くか、様々な選択があります。

今日の聖書箇所は、いわゆる「十戒」の第一の命令です。「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。」第一の命令で、最初に選ぶべきことは、自分が信ずべき宗教に関して、天地創造の神であるとともに、イスラエルをご自分の民として選び、エジプトの奴隷状態から救い出し、やがて神の御子イエス・キリストによってご自分に背いた罪人たちを救おうとしておられる神を選ぶことだ、と言っているのです。これは、一見すると、神の自己中心的な命令に見えます。しかしそうではありません。神様には、これ以上のことを勧めることができないので、こうなのです。

### 宗教によって人生観が変わる

人はどのような神を信じるかによって、その人の人生観が変わります。

まず、神を信じない、という選択もあります。この世界はすべて偶然の産物である、と考えれば、自分の人生にも目的や意味がないことになります。

ギリシャやローマの神々のような、人間世界の写しのような、愛したり、ねたんだり、殺したり、裏切る神々を信じる人は、自分の救いをどこに見出すのでしょうか？

神々の中には、何も語らない神がいます。それは、ある意味で人間にとって好都合であるかもしれませんが、いわば、自動販売機のような神様です。自分の欲しいものを何がしかのお賽銭を捧げて願い事をする、聞いてもらえる、という神様です。子どもがたばこを欲しがっても、お金さえ投入すれば、買ってしまうのです。

### 聖書の神様は

聖書の神様は私たちのような、物質的な体を持たない霊なる神様ですから、目には見えませんが、預言者たちを通して語られる神です。それらの言葉や神のお働きの記録が「聖書」です。聖書の神様は、聖く、正しく、憐れみと慈しみに富み、真実なお方です。ご自分に背いて罪を犯した私たち人間を救うために、ご自分のひとり子を人間の姿でこの世に送り、神様のみこころを私たちに示し、十字架上で私たちの犯した罪の刑罰を代わって受けさせ、自分の罪を悔い改めて、身代わりの死を遂げ、三日目によみがえられたイエス・キリストを信じる者らを救って下さる神です。

この神様を信じることによって、私たちは自分たちの人生が愛と真実の力強いお方によって導かれ、守られていることを信じ、困難に見舞われるときにも、希望を持ち続けることができます。

また、正義なる神が最終的には、すべてのことを公平に正しく裁かれることを知って、正しい生き方を選ぶように励まされます。もちろん、私たちは多くの罪を犯すものですので、威張れたものではありませんが、自分の罪を悔い改めてキリストを信じる人の罪は赦されて、キリストの義の衣を着せられて天の御国に入れていただけるのです。